

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2014年
8月12日(火)
第116号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

国立市の新制度の取り組み

4会派5人の議員とともに学習会開催

6月に開催した『子育て集会』では、今年は親子124名の参加がありました。集会の中で情勢を伝えていく時間ももち、新システムの内容や問題点などを、簡単に分かりやすくスライドで紹介したり、手作りの小冊子を配布しました。

また、市に対しては、『子ども子育て支援制度に対する要望書』を提出し、毎年行っている『保育行政と保育園の労働条件の改善に関する要求書』を合わせ、部・課長交渉を行いました。私たちの保育現場の現状や、新システムに関し私たちが危惧する事を声にし訴えました。

そして、議員むけの取り組みとして、加藤久忠氏を講師にお迎えし学習会を開催しました。当日は4会派5名の議員の参加があり、保育園部会と共に新システムについて学びました。参加された議員の方々からも、たくさんの質問が出され、新システム条例化にむけて問題点、守るべきものなどが明らかになったと思います。

課題として、今回参加されなかった会派や議員の方々はどう伝えていくのかが残り、今後の取り組みを保育園部会の中で考えていきたいと思っています。

板橋区職労保育園分会

5ブロック230人など、学習重視 7月45人での要請など繰り返し折衝

4月に保育サービス課に対し、要求書と解明要求を提出しました。5月・6月には、保育園分会運動方針を理解する、執行委員会・分会委員会で新制度導入に対し不安や疑問を討議する、板橋の保育水準を守るために板橋の保育制度や保育の良さを理解するための討議を繰り返し行ってきました。

7月には5ブロックで学習会を行い、230名の参加がありました。「来年度の新システム施行がどのようになっていくのか不安だが、今の制度を守って、安心して子育てでき、安心して働き続けられるように自分たちができる運動に協力していきたいと感じた」、「板橋の保育を守るために運動が重要ということを強く感じた」、「なかなか深い理解が難しいが、一人ひとりが危機感を持って勉強し、できることを一つ一つ行動に移し、今の板橋の保育を守っていかねければと感じた」などの感想が寄せられました。

7月には、保護者に対し門前ビラと保問協の署名を配布して訴えてきました。また、7月の分会委員会では、これまでは執行部から行動提起をしてきたのですが、“自分たちができる運動は何か”ということをも5ブロックに分かれて討議してもらいました。それぞれに自分たちの地域で効果的なチラシの配布と署名活動を検討してもらおう中で、「暑いからウチワがあるといい！」という声上がり『板橋の保育を守ろう！』ウチワを準備して8月から駅頭や公園・商店街で地域署名行動を始めました。

また、例年は新人を採用し板橋の制度を守って新年度をスタートしたことに對して7月に「がんばったね集会」を行っていますが、今年は来年度の新制度実施に向けてこれまで以上に頑張ろう！

ということで95名の参加で、「がんばろう集会」を行いました。執行部が「新制度になったら・・・」の寸劇を行い「色々と制度が変わる中守るべきものは変わらない、変えてはいけないことを改めて感じます。しっかりとした保育を守る、自分たちの働き方を守る、皆で行動できるとよいですね」、「塵も積もれば山となる…一人ひとりが少しずつの行動・アクションを起こせば大きな力になるはず！ですよね」、「日々の保育で精いっぱいになりがちですが、学習会や決起集会に参加すると、改めて知らずにいる間に色々なことが勝手に決まってしまう怖さを感じます。若い人にも声をかけ、参加していきたいです」などの声がありました。

当局に対しては、4月に提出した要求書と解明要求をもとに事務折衝を繰り返しています。7月31日には45名の参加で交渉・要請行動を行い、8月下旬にも予定しています。これまでの労働条件を堅持すること・新制度に向けては誠意をもって協議を行うよう要求していきます。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください】